

安全データシート (SDS)

作成
最終改訂

2012年5月23日
2025年6月30日

1.【化学物質等及び会社情報】

製品

製品の名称
アルセンスーパーS-R

供給者情報

会社名
アルタン株式会社

住所
東京都大田区東糀谷3-11-10

担当部門
商品部

電話番号
03-3743-5705

FAX番号
03-3743-5706

緊急連絡先
同上

2.【危険有害性の要約】

GHS分類

物理化学的危険性
分類基準に該当しない

健康に対する有害性

皮膚腐食性・刺激性
区分1

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性
区分1

特定標的臓器・全身毒性(単回曝露)
区分1

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性)
区分3

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、
上記以外の項目は、現時点で「分類できない」又は「区分に該当しない」である。

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報

重篤な眼の損傷
皮膚刺激

注意書き 【安全対策】

取扱い後はよく洗うこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。

【救急処置】

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。

【保管】

換気のよい場所で容器を密閉し保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3.【組成・成分情報】

単一製品・混合物の区別
成分及び含有量

混合物

化学名	含有量(wt%)	CAS No.	化審法番号	労働安全衛生法	PRTR法
水酸化カリウム	5.0未満	1310-58-3	1-369	通知対象物質	非該当
ポリオキシアルキレンアルキルエーテル	1.0未満	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当*
非イオン系界面活性剤	非公開	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当
陰イオン系界面活性剤	非公開	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当
ジエチレングリコールモノブチルエーテル	1.0未満	112-34-5	2-422	通知対象物質	非該当*
d-リモネン	非公開	5989-27-5	3-2245	通知対象外物質	非該当
パパイン	非公開	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当
エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム	1.0未満	64-02-8	2-1265	通知対象外物質	非該当*
除菌剤	非公開	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当
着色剤	0.1以下	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当
水	残量		非公開	通知対象外物質	非該当

*…含有量が1.0%未満のため同法に該当しない。

4.【応急処置】

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時には医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	付着物を布にて素早く拭き取る。 多量の水および石鹸を使用して十分に洗い落とす。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用してい て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに 医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	直ちに口をすすぎ、コップ1～2杯の水または牛乳を飲ませた後、無理 に吐かせないで、速やかに医師の診断、手当てを受けること。

5.【火災時の措置】

消火剤	粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水
使ってはならない消火剤	情報なし
特有の危険有害性	情報なし
特有の消火方法	火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業 は、可能な限り風上から行う。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよ う適切な措置を行う。 この製品自体は、燃焼しない。
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

6.【漏出時の措置】

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業には必ず不浸透性保護具(手袋・眼鏡)を着用する。 多量の場合、人を安全に待避させる。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項	環境への放出を避けること。
除去方法	少量の場合、吸着剤(おがくず、土、砂、ウエス等)で吸着させ取り 除いた後、残りをウエス等でよく拭き取る。 多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。 漏出物の上をむやみに歩かないこと。

7.【取り扱い及び保管上の注意】

取扱い	
技術的対策	取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。 作業場の換気を十分行うこと。
注意事項	眼への接触を避ける。
安全取扱注意事項	適切な排気換気装置を使用する。 適切な不浸透性保護具を着用すること。 取扱い後はよく洗うこと。
保管	
適切な保管条件	容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 施錠して保管すること。

容器包装材料

情報なし。

8.【暴露防止及び保護措置】

管理濃度		設定なし
許容濃度	日本産衛学会 ACGIH	設定なし 設定なし
設備対策	取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。 適切な排気換気装置を使用する。	
保護具		
呼吸器の保護	マスク	
手の保護	不浸透性(耐薬品、耐油、耐溶剤)保護手袋	
目の保護	側板付き保護眼鏡	
皮膚・身体の保護	長袖保護服	
※ 保護具はいずれも不浸透性のものを使用する。		
衛生対策	取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。	

9.【物理的及び化学的性質】

状態	液体
色調	青色透明
臭気	わずかな特異臭
pH	13~14
融点	データなし
沸点	データなし
引火点	データなし
燃焼または爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
比重	1~1.1
溶解度	水に任意の割合で溶解
n-オクタノール/水分	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
その他	-

10.【安定性及び反応性】

化学的安定性	通常の使用では安定。
危険有害反応可能性	酸との混触により発熱する。亜鉛、アルミニウム、クロム等金属と混触すると可燃性ガス(水素)を発生する。
避けるべき条件	情報なし
混触危険物質	酸、アルミニウム、チタン、亜鉛、及びそれらの合金、クロム。
危険有害な分解生成物	情報なし

11.【有害性情報】

皮膚腐食性／刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷／刺激性	区分1
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	区分1(呼吸器の障害)

12.【環境影響情報】

水生環境有害性 短期(急性)	区分3
----------------	-----

13.【廃棄上の注意】

残余廃棄物	都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に委託し、関連法規等を遵守し廃棄すること。
汚染容器・包装	内容物を除去した後、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に委託し、関連法規等を遵守し廃棄すること。

14.【輸送上の注意】

特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
国際法規制	航空輸送はIATA 及び海上輸送はIMDG の規則に従う。
国連分類	クラス8
国連番号	1814(水酸化カリウム)

国内規制	
陸上輸送	消防法、労働安全衛生法に定められている運送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	航空法に定められている運送方法に従う。

15.【適用法令】	
化学物質管理促進法(PRTR法)	第一種指定化学物質を含むが、含有量が1.0%未満のため同法に該当しない。
化審法	特定化学物質、監視化学物質および優先評価化学物質に該当しない。
労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物 水酸化カリウム ジエチレングリコールモノブチルエーテル 名称等を表示すべき危険物及び有害物 水酸化カリウム ジエチレングリコールモノブチルエーテル リスクアセスメント対象物質 水酸化カリウム ジエチレングリコールモノブチルエーテル 皮膚等障害化学物質 該当
毒物及び劇毒物取締法	該当しない
火薬類取締法	該当しない
高圧ガス保安法	該当しない
消防法	該当しない
船舶安全法	危規則第3 条危険物告示別表第1 腐食性物質 水酸化カリウム
航空法	施行規則第12 条危険物告示 腐食性物質 水酸化カリウム
海洋汚染防止法	施行令別表第1 有害液体物質 Y 類物質

16.【その他の情報】	
記載内容の問い合わせ先	アルタン株式会社
住所	東京都大田区東糀谷3-11-10
担当部門	商品部
電話番号	03-3743-5705
FAX番号	03-3743-5706

改訂履歴	
作成	2012年5月23日
改訂	2016年4月4日
改訂	2022年2月15日
改訂	2022年4月11日
改訂	2023年3月10日
改訂	2024年4月17日
最終改訂	2025年6月30日

注意

- ・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
- ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
- ・注意事項は通常の取扱いを対象としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たな用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
- ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。
- ・ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。